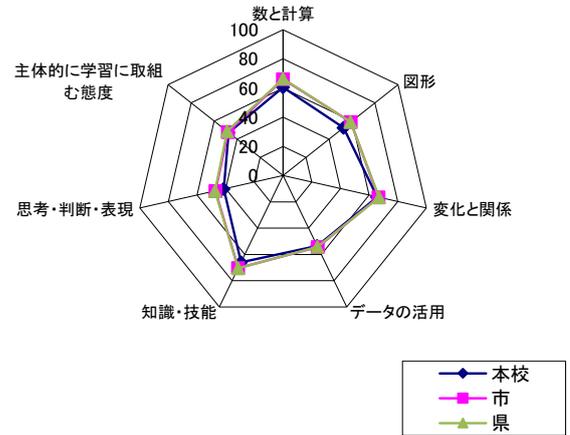


宇都宮市立桜小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.5	66.1	66.4
	図形	52.7	58.9	58.8
	変化と関係	65.7	66.6	67.0
	データの活用	53.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	66.0	70.4	70.6
	思考・判断・表現	41.4	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	47.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数を10倍した数を求める問題においては、平均正答率が県の平均正答率を5ポイント上回っており、簡単な割合の問題では、県の平均正答率と同程度である。 ●億と兆・がい数の表し方において、数の相対的な大きさを求める問題では、平均正答率が県の平均正答率を19.8ポイント下回った。	・基礎的な計算については、学校や家庭でのドリル学習に繰り返し取り組みませ、確実に身に付けられるようにする。 ・朝の学習時間や学習がんばり週間の期間に、小テストやステップアップテストを実施し、計算技能の定着を確認しながら、習熟を図っていく。
図形	○およその面積を求める問題では、平均正答率が県の平均正答率を8.1ポイント上回った。分度器の扱いや複合図形の問題では、平均正答率が県の平均正答率と同程度である。 ●360度より小さい角度を求める問題では、正答率が県平均17.6ポイント下回った。また、平行四辺形の作図では、県平均を7.9ポイント下回った。	・作図については、コンパスや定規の使い方を丁寧に指導し、学習課題にくり返し取り組むようにして習熟を図っていく。 ・ICTを活用し、図形について既習事項を確認する機会をつくるとともに、体積や合同などの学習内容を視覚的に捉え、理解を深めることができるよう指導する。
変化と関係	○伴って変わる2つの数量を調べる問題では、平均正答率が県の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、平均正答率が県の平均正答率を8.8ポイント下回った。	・具体物を用いて数量の変わり方を視覚的に捉えながら、単位量を求める考え方を通して、比例関係を理解できるように指導していく。 ・グラフや表にあらわされたデータから数量の関係を式に表す学習課題にくり返し取り組みませ、伴って変わる2つの数量の関係を的確に式に表すことができるようにしていく。
データの活用	○データの活用及び表の読み取りの問題では、平均正答率が県の平均正答率を9.5ポイント上回った。 ●分数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明する記述問題では、平均正答率が県の平均正答率を7.8ポイント下回った。	・スマイルネクストドリルを活用し、児童の習熟度に合わせて折れ線グラフの問題に取り組むようにしていく。 ・データから読み取れることを説明する課題では、算数的な見方や考え方を働かせながら表現することができるように、視点やキーワードを示すとともに、ICTを活用し、読み取ったことを伝え合ったり、交換し合ったりしながら、意欲を高めていく。